



おくすり通信

No. 69 漢方薬2 (副作用)

こんにちは、薬剤科です。漢方薬は安全な薬というイメージを持たれることがありますが、副作用が全く出ないわけではありません。気になる症状が出たら医師に連絡しましょう。

《間質性肺炎、肝障害》

漢方薬の副作用の中でも重篤なものに、「間質性肺炎」と「肝障害」があります。どちらも原因となる生薬としてオウゴンが報告されていますが、オウゴンを含まない漢方薬による副作用の報告もあり、特定はされていません。症状は可逆的であり、原因と思われる薬剤を中止すると回復します。

間質性肺炎は肺胞壁が分厚くなる病気です。肺は吸い込んだ空気中の酸素を、肺胞壁を通じて血液中に取り込みますが、肺胞壁が分厚くなると酸素を血中に取り込みにくくなります。症状が進行すると肺が硬くなってしまいます。自覚症状として、発熱、咳、息切れなどがあります。

漢方を含む多くの薬剤は肝臓で代謝されるため、多くの薬剤の副作用として肝障害があります。一般的な症状は、倦怠感、発熱、食欲不振、発疹、皮膚のかゆみなどがあります。

《偽アルドステロン症》

カンゾウ（グリチルリチン）を含む漢方薬では「偽アルドステロン症」の副作用に注意が必要です。「偽アルドステロン症」とは、アルドステロンの偽物によってアルドステロン様症状が発現することです。

正常では、アルドステロンはミネラルコルチコイド受容体（MR）に結合して生体内で作用しています。グリチルリチンはMRに結合する別の物質を増やすことで、アルドステロンの作用を強めてしまいます。

症状には、四肢の脱力、筋肉痛、こむら返り、倦怠感、浮腫、動悸などがあります。被疑薬を中止すれば症状は徐々に回復します。

グリチルリチンは配糖体であり腸内細菌により吸入のされ方が左右されるため、発症しやすさには個人差があります。ただし、一般的にはグリチルリチンの量が多いほど発症しやすいため、複数の漢方薬を使用する際には注意が必要です。また、利尿薬との併用で症状が重篤化することがあるので注意が必要です。

《その他の副作用》

生薬によるその他の副作用や注意点をまとめています。気になる症状があったら医師に連絡しましょう。

原因となる生薬	症状、注意点
マオウ（エフェドリン）	不眠、興奮。交感神経刺激のためドーピング注意
ダイオウ（センノシド、アントラキノン）	・下痢。他の下剤との併用に注意 ・長期服用で大腸黒皮症。便秘がひどくなることも
ブシ（アコニチン）	吐き気、舌の痺れ、血圧低下。重症：痙攣、呼吸困難
サンシシ（ゲニポシド）	長期服用で腸間膜静脈硬化症（腹痛、下痢、嘔吐）

漢方薬はメーカーにより構成生薬が異なる場合があります。各製剤の構成生薬は製品のパッケージまたはメーカーのホームページをご確認ください。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。